

人権啓発ネットワーク大東とは

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が2013年4月1日に設立しました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。

☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしたいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

入会等の申し込み・問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）

〒574-8555

大東市谷川1丁目1番1号

T E L : 072-870-0441

F A X : 072-872-2268

Eメール : j_keihatsu@city.daito.lg.jp



編集後記

広報委員会で、「相模原殺傷事件」について話し合った。「障がい者は、生きていても意味がない」という考えを容認する傾向が、水面下でひろがっていないか…自らの社会を点検する機会となった。いろいろな「障がい」と差別解消への法の整備もなされてきているが、「生きる喜び」が実感できる世へ、「身近に」進みたい。（広報委員一宮本喬）

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

澄みきった歌声に感嘆！

人権週間記念のつどい

新垣 勉 トーク&コンサート

～オンリーワンの人生を大切に～



昨年人権週間終盤の12月9日夜、サーティホールで沖縄出身のテノール歌手、新垣勉（あらがきつとむ）さんのトーク&コンサートが開かれました。夕方、突然の雨と雷にお客さんの入りが心配されましたが、会場受付で入場者数985人を数え、ジョークを交えたトークと澄んだきれいな歌声に、拍手が大ホールいっぱいになり響いたコンサートになりました。

新垣さんは、出生後まもなく不慮の事故で全盲となり、1歳で両親が離婚。在日米軍人だった父はアメリカに帰り母は再婚。母方のおばあさんに育てられましたが、14歳の時におばあさんも死去。天涯孤独の身になったといえます。

そんな時一人のキリスト教会牧師に出会い、新垣さんは声楽家と牧師を目指して大学の神学部を卒業、教会の副牧師になったものの、音楽への思いを貫き34歳で武蔵野音楽大学に入学。チャリティーコンサートなどを通して国内外に「オンリーワンの人生を大切に」

のメッセージを伝えてきました。2000年にリリースした「さとうきび畑」のCDは、クラシック界では異例の15万枚を売り上げました。

トーク&コンサートの1部は、アヴェ・マリアなどクラシック曲を中心にテノール歌手の魅力を示されました。2部は日本の創作曲を中心に新垣さんの高く素朴な歌声と、それに寄り添うように物静かなピアノの伴奏が流れ、人のやさしさと暖かさ、母が子ども達を包み込むような、そんな1時間40分を醸し出してくれました。

誰もがかけがいのないオンリーワンの存在だと、改めて知らされたコンサートでした。

（レポーター 松ちゃん）

い い とないの生き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる
取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

『お茶のみ休憩所ほっと』取材しました。

今回は、昨年11月16日に大東市の朋来住宅の一室で開かれたサロン『お茶のみ休憩所ほっと』にお邪魔させていただきました。

『ほっと』は毎週水曜日と金曜日に開いているサロンです。水曜日は手芸や折り紙などの「趣味」やDVDを観るなど、自由に過ごします。金曜日はイスに座ったままできる体操（元気でまっせ体操）をテレビに映しながらみんなで。曜日によって雰囲気を変えて運営しているそうです。今回、『ほっと』の呼びかけ人でもある岸野さんに色々とお話を伺ってきました。

今は平均して15、6人が参加され、イベントなどでは20～25人も参加されるようなサロンですが、もともとはご友人と5、6人でおしゃべりするところから始まったそうです。今の「サロン」の形になったのは5年前からで、もともとは集会所を使って1年ほど活動されていました。入り口においてある素敵な看板も、4年前に今の場所に移ったとき、みんなで作ったものなんだとか。



▲ 参加者が作られた折り紙作品

この日もたくさんの方が参加され、おしゃべりしながら折り紙などをされていました。なんとそのうち3人は90歳以上！お元気ですね。今回は女性ばかりでしたが、日によっては男性の参加者もあるそうで、そのときは将棋をしているそうです。でも、「男性の参加は少ないなあ・・・」とのこと。お部屋にはこれまで作られた千羽鶴などの折り紙や編み物の作品などが飾られていました。灰塚の方からいただいたキットを使ってキーホルダー作りなどもされているようです。先日は大東市人権室に依頼し、認知症に関する映画を見る機会を作ったそうで、みなさん涙ぐみながら見ておられたとのこと。ご家族で見てほしい、という思いもあり今度は広い中央集会所をお借りして上映会第2弾を計画中だそうです。

また、この日はボランティアの方がギターを持って登場し、1940年代～80年代の「懐メロ」をみんなで合唱するというイベントが！ぼくは知らない曲の方が多かったです・・・(笑)。みなさんのパワフルな歌声にぼくは圧倒されるばかりでした。みんなで歌って、その歌が出た当時の思い出話や、エピソードに花が咲いて・・・とっても素敵な時間でした。

こうやってみんなで集まっておしゃべりしたり、歌ったり。そんなことが持つエネルギーをたくさん感じた1日でした。今回はどうもありがとうございました。

(レポーター 卓ちゃん)



気づきからつながるあなたとわたし

～2016 市民じんけん講座～ 各テーマとご感想から

- ① 10/12「逃げ遅れる人々」 NPO法人ケア・ステーションゆうとぴあ理事長 鈴木 絹江 さん
感想 「福島大地震の問題点はニュース、新聞等で耳にするが、実際自分の事として捉えられない事も多くありとても恥ずかしいです。公助、自助、の大切さ、皆で考えていく大切さ、意識を常にもつ事の大切さを学びました。地震で学ばれた事をこれからも伝えて欲しいと思いました。」
- ② 10/19『ヘイトスピーチ』と向き合う～傷に寄り添い、ともに生きる！～
朝鮮学校と民族教育の発展をめざす会・京滋（こっぼんおり）事務局長 さとう 大 さん
感想 「子供達の大きなストレスや傷ついた気持ちが先生のお話によってすごくわかりました。言葉の残酷さを思い知りました。」
- ③ 10/26「日本とブータンのハピネス！？～多数者と少数者の現状と将来～」
大阪産業大学人間環境学部文化コミュニケーション学科教授 リングホーファー マンフレッド さん
感想 「ブータンという国の知らなかった側面を知り、『幸福』という形のないものの計り方や抱えている問題について考えるとともに、日本はどうなのか、自分の周囲はどうなのかを考えることができた。また『何が正しいのか？』を他人の情報まかせにしていけないと改めて考えた。」
- ④ 11/2「LGBTの現状と未来」 ゆめのたねラジオパーソナリティー 中尾 勇守 さん
感想 「…私の知り合いにも何人かいますがやはりつらいことはあったようですべて個性でそれぞれでいいんだよ…ということをお子さん、まわりの人達にも伝え、LGBTで悩む人が少なくなる世の中になればいいと思います。」 (LGBT：性的少数者を限定的にさす言葉)
- ⑤ 11/9「部落問題と向き合う私たち」 石井 眞澄 さん、石井 千晶 さん
感想 「昔から部落差別問題については知っていたが他人事のように感じていました。どうして差別されているのかも未だにわかりません。が、差別してしまってるところもあったように思います。正しい知識を自分なりに勉強していきたいと改めて思いました。」

つながる めくもい

～2016年度をふいかえって～

人権パネル展



今年度も市民目線の行事をたくさん企画しました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。

「人権パネル展」

昨年の5月に野崎まいりで賑わう野崎観音で「勇気の人 杉原千畝（すぎはらちうね）6,000人の命を助けた外交官」と題して、人権パネル展が開かれました。5月1日から4日までで3,032人の人たちの来場がありました。

第二次世界大戦中、リトアニアのユダヤ人がナチス・ドイツの迫害から逃れようとしたとき、日本政府からの処罰を恐れず、日本通過を許可するビザを発行し続けた杉原千畝の生涯に多くの方が感動しました。

「憲法週間記念のつどい」

同じく5月には、憲法週間記念のつどいとして、「全日本おばちゃん党」を立ち上げた大阪国際大学准教授の谷口真由美氏の講演会を開きました。「憲法のはなしでっせ～もっと知って憲法を～」というタイトルの講演は、「憲法は権力をもつ人たちが暴走しないように考えられている」などを終始分かりやすい言葉でお話されました。語り口調も柔らかく、会場内は笑いに包まれていました。

また、その講演の前には管弦楽アンサンブル「アンサンブル・サビーナ」の演奏があり、ふだんはなかなか聞けない本格的な演奏に豊かな時間を過ごすことができました。597の方が来場されました。

憲法週間記念のつどい



「市民・会員交流フィールドワーク」

7月には、第二次世界大戦中のナチス・ドイツから6,000人のユダヤ人の命を助けた外交官「杉原千畝」の生誕の地、岐阜県加茂郡八百津町の「杉原千畝記念館」を訪れ、戦争の悲惨さ、命の大切さについて学習するとともに市民と会員との交流を図りました。当日は、39の方が参加され、平和について深く考える一日となりました。

市民・会員交流フィールドワーク



「市民まつり」

9月には、恒例の市民まつりがあり、その中で人権啓発ネットワーク大東の活動を紹介するパネルと「杉原千畝」を紹介するパネル展示を行いました。市民まつりに参加された多くの方が足を止めて展示を見学されました。また、「杉原千畝」生誕の地、岐阜県加茂郡八百津町の特産品の販売も行いました。さらに、人権啓発グッズ（メモ帳）の配布も行いました。

市民まつり



「親と子で平和を考えるつどい」

同じく9月に、市民会館でアニメ映画『対馬丸一さようなら沖繩一』の上映が行われました。上映前、大東市主催の平和バスツアーの参加者2人が作文を朗読しました。127人の参加があり、親子で平和について学び、考える貴重なひと時となりました。

親と子で 平和を考えるつどい



「地域集会」

温かい街づくりをめざそうと大東市では毎年、人権の大切さについて考える「地域集会」を開催しています。市内の各自治区の皆様の協力と応援があればこそこの事業です。今年度は、認知症をテーマにした「ここから歩き始める」というビデオを見た後、参加者の経験談や専門家からの助言を聞いています。参加した多くの方から「参考になることが聞けてよかった。」という声を寄せていただきました。

地域集会



相模原市の障がい者施設で殺傷事件

なぜ？広報委員会レポーターが話し合いました

昨年7月26日深夜、神奈川県相模原市の障がい者入所施設やまゆり園に男が窓ガラスを割って侵入。寝ていた多数の障がい者を包丁等で殺害した。当時の発表では、施設職員を含め19人が死亡、26人が負傷した。犯人は同施設の元職員。犯行動機は「障がい者の安楽死を国が認めてくれないので、自分がやるしかないと思った。障がい者があって家族も周囲も不幸だと思った。不幸を減らすためにやった。」と供述しているという。

人権啓発ネットワーク大東広報委員会は、機関誌づくりの過程で、相模原市の障がい者入所施設「やまゆり園」での残虐な大量殺人について強い衝撃を感じました。なぜ多くの障がい者が殺されたのか。そうならないために私たちに何ができるのか。市民の皆さんと一緒に考えるための素材をレポーターで話し合ってみました。

なぜ事件が起こったのか？その問題意識は？

あき(進行役) まず、加害者、被害者、施設、地域の関係から、なぜ事件が起こったのかを考えてみたいと思います。

卓ちゃん 「障がい者の安楽死が認められないから」という誤った主張がキーワードだと思います。加害者にはそこまで思うほどの経験があったのでしょうか。

宮本 異常性、嗜虐性しぎやくというものが人の心に潜んでいて、それが出てこないように自分をコントロールする力、この場合この力を加害者はなくしてしまったのでしょう。

なっちゃん 加害者は、介護の仕事を通して、障がい者が力強く生きていく姿やお母さんの気持ちをどれだけ感じていたのでしょうか。仕事を通して思いやりや優しさを感じるものと思うのに、人間関係や仕事のイライラでストレスが積みかさなって、こんな事件になったのかと思います。

あき インターネット上ではだれが書いたかわからないことを利用して、弱い立場の人や虐げられている人々への攻撃的で過激な発言が蔓延まんえんしていて、かつてのナチスのような「障がい者はいないほうがいい。」という考え方に影響されます。加害者が大麻を吸っていたこともあって、そんな考え方がエスカレートしたのかも知れません。

松ちゃん 親や祖父母の時代は、汗水たらして働いて豊かな国を作ったという自負があります。その過程で、障がい者を「働かない者」「社会に貢献しない者」という考え方が子育てのベースになってきたのではないのでしょうか。でも、人はそれを理性で抑えることができるが、加害者にはそれができず犯罪につながったのではないのでしょうか。

あき 障がい者に対する危険な感情は、この加害者一人が特別ではないような気がします。障がい者を邪魔な存在として排除する誤った考え方は、社会の風潮の結晶ではないのでしょうか。



あき(進行役) 逆に被害者はなぜこの事件を起こされたのでしょうか。

卓ちゃん 施設に対する安心感で反応が遅れてしまったのかなあとと思います。

宮本 どんな施設も侵入しようと思えば可能。侵入への防御は難しいと思います。

あき 大きな施設にたくさんの障がい者が入所していることも被害を大きくした一因ではないのでしょうか。

再発防止に地域の課題

あき(進行役) 再発防止策も含めて地域で何をしていけばいいのでしょうか。

ガンちゃん 「人は生きていて意味がある。」という考え方が日本では根付いてない。今回の事件はそれに尽きると思う。私たちの考えの中にも「人は歩けるほうがいい。役に立つ人間がいい。五体満足がいい。子や孫が障がいを持っていたら苦勞が見えるから、障がいを持つことが嫌」という気が心の一部にあるんじゃないか。「生きてそこにいて意味がある。」という考え方が根付くことが大事で、そこは教育の力だと思います。

あき 加害者は危険のサインをあちこちで出していた。なのに誰も止めることができなかった。サインへの対応ができてないのが気になります。

卓ちゃん 加害者にきちんと話のできる人が一人でもいれば、状況は変わっていたのではないかなあとと思います。

松ちゃん 施設防御の問題ですが、施設側からはセキュリティを強化して不審者を未然に防ぎたいという一方、周辺住民との地域交流を深めたいとする考え方と相反するところがあります。それをどう考えるかです。

ガンちゃん 大阪教育大学附属池田小学校で児童への殺傷事件がありました。結果、ガードマンを校門におくなどセキュリティを強化しました。私は、それに加えて地域の人を学校施設に入らせていただくことが子ども達を守るうえで大切だと思っています。池田の小学校で犯人が小学生を狙ったのは、相手が自分より小さく、自分が安心して勝てるという相手を狙ったのです。だから日常的に地域のおっちゃん、おばちゃんが学校や子ども達にかかわっていたら、もっともっというんなことが防げると思います。

松ちゃん 施設でも同じで、セキュリティ対策は必要ですが、基本は、この施設には不審者が入りづらいという「地域の目」を養うこと。地域との連帯がなかったら何をしてもアカンではないか、日常的に地域交流の取り組みを続けることが犯罪防止にとって大事だと思います。

宮本 日常的な地域交流の実践例はありますか。

松ちゃん 奈良市内の阪奈道路に面した障がい者施設が運営するレストランが繁盛していますし、大東市内のたくさんの箇所で障がい者施設の手作り品が販売されています。施設のイベントや施設見学、活動ボランティアなど、施設に申し込めば参加可能です。

なっちゃん 四條畷学園の食堂でも障がい者の手作りクッキーが売られ、おいしいからすごい売れ行きです。

あき(進行役) 最後に、私たちに何ができるのかについてお願いします。

宮本 障がい当事者等の話を聞くことが大事ではないですか。

松ちゃん 障がい者自身の訴えに「私たちのことを、私たち抜きに勝手に決めないでください。」というのがあるって、今日では障がい者本人による活動が進められています。

あき 障がい者の理解に、当事者の話を聞くということが大切です。その機会や役割を施設が果たすべきなのですが、こんな事件が起こってセキュリティを強化するということになると、地域との溝をより広げていくことにもなって、理解や連帯とは別の方向に向かうことが考えられます。地域交流でのトラブルなど課題も含めて、どう解決していくかが今日の座談会での投げかけだと思います。不十分なまとめになりましたが、これで終わります。



ハート祭で地域交流 (写真提供＝(社福)ハートフル大東) ▲